

Q：外傷性顎関節炎という症状があると聞きました。どのような病態なのか、また治療方法などを教えて下さい。

A：

外傷性顎関節炎の概要（原因）

下顎に強い衝撃を受けた後に顎関節周囲に痛みを伴う開口障害、咬合不全などが生じることがあります。その症状が外傷性顎関節炎であり、転倒やスポーツによる打撲、あくびなどの大開口や無理な姿勢によっても発症することがあります。年齢分布は幅広く、コンタクトスポーツである空手やバスケットボール、ラグビーに加え野球やバレーボールなどに没頭している小・中学・高校生から、何気ない大あくびに続発して開咬不全を発症してしまった20代から50代の方、最近のwalkingブームに乗って散歩やランニングをしている最中に敷石や車止めにつまづいて転倒した壮年期以降の方まで、骨折には至らなかったもののさまざまな顎顔面の外傷によって、あらゆる年齢層に発症しているのが現状です。

・各年代での発症原因

小学生：スポーツ外傷（クラブ活動含む）・いじめ・家庭環境

中・高校生：スポーツ外傷（コンタクトスポーツ含む）・クラブ活動（ブラスバンド含む）・

大学生：クラブ活動

青年期（～40代）：仕事環境（重い荷物を担ぐ、モニターを長時間見続けるなどの姿勢を含めた労働環境・人間関係のストレスなど）

成年期（50代）：仕事環境・家庭環境・スポーツ障害

壮年期（60代）：過剰活動・家庭環境

外傷性顎関節炎の症状

外傷性顎関節炎の主な症状は顎関節部の痛みを伴う開口障害です。自発開口量が減少し、強制開口時に顎関節部に痛みが生じます（咀嚼筋群の痛みはまた別の顎関節症の症状と考えます）。さらに、開口路にも偏位も生じることが多いです。偏位が生じる理由としては、外傷性顎関節炎を発症している側の顎関節部においては痛み、あるいは関節円板の偏位などによって関節突起の可動域に制限が生じます。正常顎関節側は正常の可動性を有しますので炎症側と正常側の可動域に差が生じます。これにより、炎症側に偏位する現象が生じることになるわけです。また、噛みしめ時に疼痛が生じます。顎関節部に炎症が生じていますので、咬合による負荷がかかることで顎関節内に発痛物質（プロスタグランジンE2やロイコトリエンB4）が産生されることになり、痛みを感じるようになるのです。

外傷性顎関節炎の治療方法

治療・管理目標は痛みを減少させること、顎機能を回復させること、正常な日常生活を回復させること、および病因に対する暴露時間を減少させることです。本症状の自然経過を調べた研究では、時間経過とともに改善し治癒していくことが多いことが示されています。本疾患患者の自覚症状は保存的治療によって良好に緩和することがほとんどです。そのためできるだけ保存的で可逆的な治療を行うことが推奨されています。

外傷性顎関節炎の主な治療方法は薬物療法と運動療法です。薬物療法では外傷によって滑膜、円板後部組織、関節靭帯、関節包に生じた損傷に続く炎症に対して、消炎鎮痛を目的として NSAIDs を投与します。運動療法では顎関節痛によって開口制限（運動制限）が生じていますので、術者あるいは患者自身によるモビライゼーション（顎関節可動化訓練）を行うことになります。鏡を見ながらまっすぐ開口するように最初は術者が指導します。強度の炎症の場合には消退を待つことになりますが、軽度の疼痛であれば関節のリハビリテーションなので継続して行うように指導します。顎関節の運動障害に対し徒手的に柔和な外力を加え関節の回転、滑走運動を行い、顎関節の可動域を改善します。

・顎関節可動化訓練（モビライゼーション）の一例



下顎前歯に示指、中指、薬指をかけ、開口時痛よりももう少し強い痛みを感じる程度に開口させ、この状態で 10 秒間維持する。ただし、開口訓練によって、日常生活上で顎関節部の痛みが増大する場合は中止して下さい。

顎関節症の治療期間は、一般的に 2 週間から 3 か月程度で、痛みが解消され、開口も支障なくできるようになります。どうしても回復しない場合には MRI による画像診断も考慮します。また症例によっては専門医によるパンピング、関節腔洗浄療法を併用した徒手の顎関節授動術（マニピュレーション）を検討します。

最後に、外傷性顎関節炎は放置しておくとうんきろーしス（骨性癒着）を起こし、どうしても口が開かなくなってしまうことがあります。私はバイク転倒事故による下顎の打撲後に数年かけて開口障害が進行し、最終的には開口量は 8mm ほど舌も出せなくなった患者を経験したことがあります。このような事態に陥らないように注意して診察して下さい。

また、顎関節症の治療を繰り返しても顎の痛みや口が開かない等の症状が治らない場合は、他の病気、例えば線維筋痛症やうつ病などが潜んでいる場合がありますので、専門医のいる医療機関に相談してみて下さい。